

委員会報告

2013～2014 年度

No.1

第 4 回

委員会名

政策・中長期計画委員会

委員長名

L 小堀 光由

開催 日時	2013年 10月 9日 水曜日 15時 45分 ～ 17時 30分					
開催 場所	キャビネット事務局小会議室					
出席 者	×	鈴木地区ガバナー	×	塩月第1副地区ガバナー	×	近藤第2副地区ガバナー
	○	L 小堀光由委員長	○	L 追原篤男副委員長	○	L 篠 順三副委員長
	○	L 松尾志朗副委員長	○	L 川口 学副委員長	○	L 田原 進委員
	○	L 秋本由紀子委員	○	L 外山一宏委員	○	L 洗 昌躬委員
	×	L 小倉 豊委員	○	L 菊池一夫委員		L 委員
		L 委員		L 委員		L 委員
		L 委員		L 委員		L 委員
		L 委員		L 委員		L 委員
		L 委員		L 委員		L 委員
	出席オブザーバー					
	×	L 菅原雅雄 SPA	○	L 有山 賢担当副幹事		
次 第	司会・進行 L 篠 順三					
	1	開 会	L 田原副委員長			
	1	委員長挨拶	L 小堀光由			
	2	配布資料確認	L 追原副委員長			
	3	キャビネット報告(担当副幹事)	L 有山 賢担当副幹事			
	4	審 議 別紙議題による				
	5	その他				
6	閉会挨拶	L 松尾副委員長				
議 題	審議経過事項の概要					
	1	① 第60回年次大会ガバナーズ・アワード表彰規定について				
	2	② その他				
	3					
	4					
	5					
	6					
次回開催日時	2013年 10月 22日 火曜日 15時 45分 ～ 17時 30分					
場 所	キャビネット事務局 会議室					

作 成 者

L 菊池一夫

議 題	審議経過事項の概要	
1	開会挨拶	L 田原副委員長
1	委員長挨拶	L 小堀委員長
	今日はアワード申請について各自ご検討頂いたことを発表頂き、内容を詰めていきたいと思えます。皆様から忌憚のない意見を頂きながら実りある委員会としたい。との挨拶があった。	
2	前回議事録確認と委員会報告	L 菊池委員
3	配布資料確認	L 追原副委員長
4	キャビネット報告	
	L 小堀委員長	ガバナーズアワードの件につきまして、ガバナーの方から何かご希望が有れば当委員会へお伝え下さい。と有山副幹事へ依頼をしました。
	L 小堀委員長	戸部幹事より、会員増強についてアワードを厚くして欲しい旨の話しが有りました。
	L 有山副幹事	選挙規定で改正点があります。選挙活動において前、現、元ガバナーに関する件ですが、選管で元ガバナーは除外し、選挙活動をして良い。という改正となります。
4	議題・審議事項	①第60回年次大会ガバナーズ・アワード表彰規定について
	L 小堀委員長	皆様に前回持ち帰りご検討頂いた事を発表頂き協議を進めていきます。
	L 追原副委員長	資料を元に検討したが、それ程大きな変更点はないと思われま。やはり気になるのは、家族会員の扱いをどうするのかということです。
	L 松尾副委員長	統一アクティビティをどうするかについて、別途委員長に資料をお出しさせて頂いた。
	L 川口副委員長	前年通りでよいと思う。
	L 洗委員	前期に大石ガバナー期の適用除外の意味はどういうことでしょうか
	L 小堀委員長	この3年間申請除外適用を用いる必要性が薄いという事でご理解下さい
	L 洗委員	アワード数、種類は前年通りで良いと思う。
	L 外山委員	内容と対象者については、委員会から上げて来たものを取り纏める事とまたその年その年の委員会のこだわりや、継続事業も大事だと思います。
	A10のホーム例会100%出席賞は会員としての義務なので必要無いのではないかと思います。	
	L 篠副委員長	会員増強について、大雑把に投げてもいいのではないかと。
	L 小堀委員長	申請については、4月20日に向けてZCPへの提出日2月10日、RCP提出2月17日、キャビネット事務局提出2月24日となる。当委員会ではアワードの方向性を決めてキャビネットに提出する。Aグループが運営部門。Bグループがアクティビティ部門。運営部門：6委員会。アクティビティ部門：13委員会、これらの各アワードの規定を決めなければならない。1ヶ月に33万リットル献血をやって申請したクラブも有る。回数にするのか、リッターにするのか難しい面もあります。

議 題	審議経過事項の概要
	L 小堀委員長 モンゴル、政策、会則各委員会は対象外となります。表彰の基準を例年通りとするのか、変えるのかも決めなければなりません。またアワード審査
	運営のあり方も検討の必要があれば検討したい。
	L 追原副委員長 会員増強のセミナーをやったこともあります。
	L 洗委員 晩餐会になると人が減っていく傾向がある。
	L 松尾副委員長 賞を貰えないクラブの参加率も悪い。
	L 追原副委員長 表彰状は委員長名+ガバナー名で記載されているのでしょうか。
	L 小堀委員長 アワード表彰されるクラブは短冊や、ワッペンだったと思います。
	L 洗委員 表彰式を別にするのもいいのではないかと思う。
	L 川口副委員長 別の席で各クラブの3役に出席頂き、そこで表彰するのも一案ではないか
	と思います。
	L 松尾副委員長 案としては悪くないのではないかと思います。
	L 追原副委員長 出席人数も多いと思われますので、新年度の会長会議で渡すことでは如何
	でしょうか。
	L 有山副幹事 140人～150人くらい出席いただいています。
	L 小堀委員長 皆様の意見の通り、別でやるのも一案かも知れません。
	L 松尾副委員長 私には判断しかねるが、答申案としては良いのではないかと思います。
	L 小堀委員長 但しその場合、アワード申請期間が決まっているので年次大会が終わった
	後の6月中旬までにやるしかないと思いますが。
	L 松尾副委員長 過去のアワード表彰で印象に残ったのはなんでしょうか。
	L 小堀委員長 アワード毎にプラカードを掲げて入場した年の晩餐会は印象的でした。
	L 追原副委員長 チアガールも印象に残りました。
	L 篠副委員長 自クラブの表彰が終わったら帰るところもあります。同じ時間に別の席で
	飲食していただけるなどの工夫があると良いかも知れません。
	L 追原副委員長 皆さんの前で表彰することが大事なのではないかと思います。
	L 小堀委員長 年次大会晩餐部会が何か面白いことを企画する必要もあるかも知れません
	ところで皆様はアワードの審査に関わったことはありますか。
	L 篠副委員長 審査基準が委員会によっては難しい。
	L 松尾副委員長 LCIF 表彰の時に、委員会が審査を一生懸命取り組まれたのでしょ
	う、受賞者が凄く感動されている姿が、晩餐会で周りの方々に感動を呼んでいた
	L 小堀委員長 アワードの審査にも温度差があります。定量で量れるところはいいですが、
	定量化しにくいところについては、中々決められず苦慮しているところも
	あります。この温度差を無くすにはどうしたら良いかも検討したい。
	L 川口副委員長 文面を上手く書いた人が審査に通り易い面はあると思います。
	審査方法として、厳粛な2～3人でやれると良いかもしれません。
	L 小堀委員長 何らかの方法を提示したいと考えています。
	L 川口委員長 継続事業などは、同じ事を続けると貰えるようになりますので、申請

議 題	審議経過事項の概要
	制限も必要でしょうか。
L 小堀委員長	皆さんの意見に出ているようなことを含めて検討したい。まずは各委員会 が審査委員会内で審査をし、最終結果をガバナーに提出します。
L 追原副委員長	審査の中間を、キャビネットの定例会で大雑把に揉んでから、審査委員会 で結論を出す事になるのでしょうか？
L 小堀委員長	例年ですと幹事団定例会で一次審査を済ませて審査会に提出しています。 先ほど申しましたように各審査委員会で温度差がありますので、もう少し 審査時間温度差を無くせるような案を決めたいと思います。今年の申請基 準は単年度単位で考え、適用除外はしないことできたいと考えています
L 松尾副委員長	複合にはどのような条件でいくのでしょうか。
L 小堀委員長	特別条件は有りません。準地区から複合にもっていく場合もあります。 準地区で漏れて複合で評価されるようなこともあります。
L 篠副委員長	委員会名での審査は必要無いのでしょうか。
L 小堀委員長	それについてはキャビネットでやることになります。
L 洗委員	個人表彰はとても良いと思っているが。
L 小堀委員長	ホーム例会出席100%に対する表彰ですが、例会出席は会員としての 義務なので個人表彰から外したいと思いますが皆様いかがでしょうか 全員賛成。
	委員会毎のアワード規定について
L 追原副委員長	会員増強表彰は家族会員を含まないと昨年の資料に明記されています。
L 小堀委員長	本年全国ガバナー連絡会で家族会員と賛助会員は同じ括りとされています クラブ+個人にするかどうかを決めて申請書を作る必要があります。
L 松尾副委員長	委員会によって定量的にできないこともあるので、これだ。というふうにな かなか言えない。
L 篠副委員長	正会員については、クラブ、個人の会員増強となっています。
L 洗委員	家族会員は何人も入れるものではなく、ご子息等に限られてくると思いま すので、家族会員について個人賞は要らないのではないかと思います。
L 小堀委員長	そうですね。家族会員についてはクラブのみとしましょう。 指導力育成委員会についてはどうでしょうか。ここは昨年も、その前も同 じ言葉をつかっています。委員長から諮問します。となっている。
L 追原副委員長	A6、2番目に書いてあります 申請書の中に明記した方が参加者が増えるのではないのでしょうか。
L 小堀委員長	これは終わった後の報告書なので少し違って来ると思います。申請書に 追記するなどしなければならぬと思います。
	傘寿賞及び卒寿賞も申請すると、6月30日までに満80歳及び満90歳を

